綿ができました

綿花の栽培について、夏休み中に御協力ありがとうございます。
おかげさまで、だんだんコットンボールがはじけて（開絮）、綿が見えてきました。
これまでの様子について、まとめましたので御覧ください。

綿花栽培から SDGs知る

掛川・倉真小で授業

児童たちに配られた綿の種

青木憲治准教授（右奥）の説明を受ける児童たち＝掛川市倉真小で

2月　綿とSDGsについて 静岡大学の先生の講話

5月17日 綿の種まき

綿の種まきSDGs学ぶ

掛川・倉真小 静大、地元障害者施設と連携

植物由来素材 セルロースファイバーに加工

綿の種まきをする児童＝掛川市倉真小の倉真小
（写真の一部を加工しています）

掛川市の倉真小の全校児童60人は17日、綿の種まきを同校で行った。成長した綿は、植物由来の新素材セルロースナノファイバーより繊維の目が粗いセルロースファイバー（CF）に加工する。静岡大や地元の障害者就労支援施設と連携した活動で、地域に参画しながら持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ。

種は、綿の栽培を行う障害者就労支援施設「きぼくのもりベンタス」から提供を受けた。児童は鉢に土を入れた後、綿の種2、3粒をまいた。丁寧に種をまいた6年佐藤永愛さん（11）は「大きく育てたい」と話した。

種まきに先立ち2月、児童は静岡大グローバル共創科学部の青木憲治准教授からCFが脱炭素につながる素材であることを学び、理解を深めてきた。青木准教授は「CFはまだ市民権を得ていない。主体的に関わることで身近に感じるはず」と期待した。

綿は学校で栽培し、9月に収穫予定。CFに加工後、ペンケースやハンガーとして児童にプレゼントされるという。（掛川支局・山本萌佳）

夏休み中に 家庭で開花！

綿の実からはじけて 綿ができました

収穫の仕方を教わり、学年を越えて有志が分別